輝く生 絶対消すな

「余命3カ月」手術費用は40万円

世界子ども救援キャンペーン

光り輝く島再び

私たちにできること

▶▶2

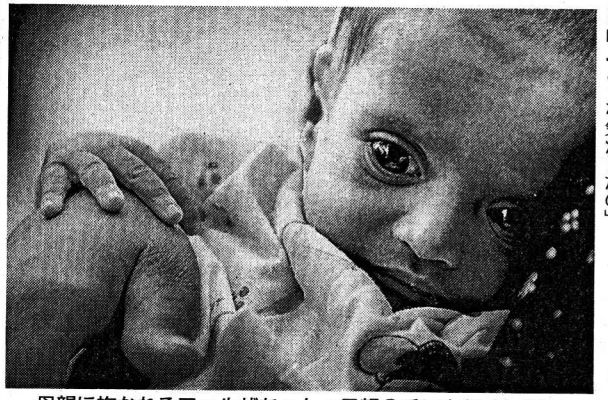
手足は、今にもちぎれそうなくらいか細い。おっぱいをまさぐる手のひらは、モミジの葉ほどしかない。抱き上げると、今を生きる喜びを精いっぱい表すかのように、にっこりほほ笑んだ。

ファルザちゃんは今年7月19日、スリランカ北東部・トリンコマリー県で、ムスリムの両親から生を受けた。母ロジナウマさん(36)にとっては2人の娘に次ぐ待望の男の子。喜びに浸った。

だが、すぐに悲しみに変わった。生まれて間もなく呼吸困難となり、酸素吸入のためICU(集中治療室)に運ばれた。体重2000㌘強。県内最大の病院の医師は「手に負えない」と言った。約200㌔離れたコロンボの救急病院に搬送され、1カ月半、治療が続けられた。津波で家を失い仮設住宅で暮らす母の元にいったん戻ったが、2週間で再びコロンボの心臓病院へ。「心房に穴が開き、敗血症と肺狭窄を併発している」。10月初め、医師は診断結果を母に告げた。「すぐ心臓手術をしないと、あと3カ月しか生きられない」

母は「自分のせいではないか」と思い悩む。昨年12月26日、津波の日。海岸線から25㍍しか離れていなかったセメント造りの家は、基礎部分も残さず波にのまれた。隣家に住んでいた伯父のカリールさん(45)のほか、6人の親せきが帰らぬ人となった。家の中で休んでいた妊娠3カ月の母は、家族らとともに1500㍍離れた山に向かって走って逃げた。何度も道に座り込んだ。

「走って激しく揺さぶられるたびに『苦しい』『苦しい』って、おなかの中から叫ぶような気がしたの」。



母親に抱かれるファルザちゃん。母親の手に力なくしがみついていた＝スリランカ・トリンコマリー県の仮設住宅で15日

生まれた時から体重がほとんど増えず、ハイハイすることもできない。ビタミン入りの粉ミルク以外口にすることができない愛する息子に、申し訳なさそうにつぶやいた。

手術費用は40万㌦(約40万円)。だが、夫(37)は02年まで続いた激しい内戦の影響で3度国内避難を強いられた間に無気力になり、薬物に手を染めた。そしてファルザちゃんが生まれて間もなく、仮設住宅から姿を消した。

仮設の住民らが募金活動

祖父母らの支援で何とか暮らしてきた。手術費用を工面するめどは立たない。仮設住宅の住民グループが、NGOなどに募金を求める活動に立ち上がった。

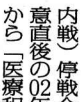
何度も息絶えていく人をみとった。この世に生を受けた子どもを、何とか守れないものか」

医師の宣告から間もなく3カ月。時間がない。

【中尾卓英、写真・望月亮一】

グループのリーダー、シバネサナザンさん(37)は話す。「内戦、そして津波。

あなたは助けてくれますか？



特定非営利活動法人「AMDA」の菅波茂理事長(スリランカ内戦)停戦合意直後の02年から「医療和平」を掲げ、政府、反政府、イスラムの各地域で公平に、保健教育活動をしてきた。その信頼があって津波後、反政府地域でも医療救援活動が出来た。いくら理屈を並べても仕方がない。私が困っている時、あなたは助けてくれますか？国際貢献は「あなたと私の関係」で考えることが出来るかどうかにかかっている。

災害や戦争などで苦しむ子どもたちを支援する「世界子ども救援金」を募集しています。郵便振替か現金書留で送金いただくか、ご持参下さい。〒530―8251　大阪市北区梅田3の4の5、特定非営利活動法人・毎日新聞希望のネットワーク「世界子ども救援金」係(郵便振替00930・8・185415)